ISO 9001
認証取得

shindaiwa®

取扱説明書

高枝ヘッジトリマー

AH230



⚠注　意

ご使用前に、必ずこの取扱説明書をお読みください。
また、内容をよく理解したうえでご使用ください。
不適切な操作や保守は、重大な事故につながるおそれがあります。
なお、本書はいつでも利用できるよう、大切に保管してください。

目次	項
1．安全にご使用いただくために	1
2．仕様	11
3．各部の名称	12
4．組立の手順	14
5．エンジンの始動と停止	19
6．せん定・刈り込み作業	23
7．点検・整備	26
8．長期保管	32
9．故障の診断と処置	33
10．主な消耗品	36

はじめに

新ダイワ高枝ヘッジトリマーをご購入いただきありがとうございます。この取扱説明書の「安全にご使用いただくために」を十分理解し、安全に使用してください。この取扱説明書で分からないことがありましたら、お求めの販売店かお近くの弊社営業所にお問い合わせください。

高枝ヘッジトリマーは高速で往復する刃物（ブレード）で生垣や植込のせん定、刈り込みをする機械です。人的負傷、火災を予防するために安全を常に心がけてください。不注意または不適切な使用は重大な事故の原因になります。

シグナル用語の説明

この取扱説明書は次のシグナル用語を使用しています。

⚠危　険　**取扱いを誤った場合、使用者が死亡または重傷を負う危険が切迫して生じることが想定される場合。**

⚠警　告　**取扱いを誤った場合、使用者が死亡または重傷を負う可能性が想定される場合。**

⚠注　意　**取扱いを誤った場合、使用者が障害を負う危険が想定される場合および物的損害のみの発生が想定される場合。**

1．安全にご使用いただくために

警告ラベルの説明



この取扱説明書をよくお読みください。



この機械を運転中は常に耳栓、保護メガネ、保安帽を着用してください。



この機械を運転中は常に耳栓、保護メガネ、保安帽、長ズボン、スリップ防止底の安全靴、滑り止めのついた防振性のある手袋を着用してください。



枝などが自分や他の人に落下する恐れのある場合は、作業を行わないでください。



作業中は半径15m以内に他の人を近づけないように注意してください。



疲労、病気、酒気帯びの場合、または医薬品服用中の場合は作業を行わないでください。



感電防止のため、電線より10m以上離れた場所で使用してください。

1－1　ご使用前に

⚠危　険

- 取扱説明書を読んでいない人や年少者（子供）にヘッジトリマーを使用させないでください。
- 本機を他人に貸す時は、必ず取扱説明書を添付してください。
- はじめて高枝ヘッジトリマーを使用する方は使用方法を販売店などからよく教わり、使用方法を十分習得してから使用してください。
- 枝打ち作業など、せん定、刈り込み以外の用途に使用しないでください。

■ 作業中は石、金属やプラスチックなどにブレードを当てないでください。ブレードが破損、発散し、危険です。

■ ブレードがフェンスなどの硬いものに当ったときは、ただちにエンジンを停止し、ブレードに異常がないことを確認してください。異常がある場合はただちに新しいブレードに交換してください。

■ 曲がり、変形、クラック、破損の生じたブレードは廃却し、使用しないでください。

■ フロントハンドル・プロテクターが、しっかりと取り付けてあることを確認してください。

■ プロテクターなどの安全装置は絶対に取り外さないでください。

■ 作業する場合、高枝ヘッジトリマーの15m 以内に他の人、子供、動物がいないことを確認してください。誰かが近づいてきた場合は、エンジンを停止し、ブレードを止めてください。

■ エンジン始動時および運転時は絶対にプレードに手や足を近づけないでください。

■ 屋内などの換気の悪い場所では、決してヘッジトリマーを運転しないでください。排気ガスにより、ガス中毒をおこします。

■ 排気ガスを直接吸ったり、人体に直接当たるような使い方をしないで下さい。

■ 電線、電話線の付近で接触や感電の恐れがある場合は、防止処置を施してから使用してください。

■ 高い場所のせん定、刈り込み作業を行うと、切りくずや枝が落下し、電線のショートや切断、交通の障害、人体の負傷などの事故を起こす恐れがあります。
それらの安全の確認と、事故防止の処置を取った上で作業してください。

⚠警　告

■ 決して高枝ヘッジトリマーを勝手に改造しないでください。

■ 疲労、病気、酒気帯びの場合、または医薬品服用中の場合は作業を行わないでください。また作業中に体調が悪くなった場合にはすぐエンジンを止め、作業を中止してください。



■ 夜間および天候の悪いときは使用しないでください。

■ 高枝ヘッジトリマーの操作時間は 1 日 2 時間以内にとどめ、30～40分運転したら10～20分休憩してください。振動障害をおこす恐れがあります。

■ 正しく目立てされたブレードを使用してください。

■ 混合ガソリンを使用しますので、高枝ヘッジトリマーのそばで喫煙やたき火をしないでください。火災発生のおそれがあります。

■ 作業前に燃料漏れがないか確認を行ってください。漏れがあった場合はただちに修理してください。

■ マフラーやマフラーから出る排気は非常に高温になりますので、燃えやすい物を近づけないでください。

■ 作業前に高枝ヘッジトリマーの点検を行ってください。この時、破損した部品は交換し、ネジの脱落やゆるみのないことを確認してください。

■ 規格に合った保安帽を正しく着用してください。落下物や飛散物によりケガをするおそれがあります。

■ 必ず保護メガネをつけてください。

■ 必ず耳栓をつけてください。聴覚障害をおこすおそれがあります。

■ 高枝ヘッジトリマーを取り扱うときには、厚手で滑り止めのついた防振性のある手袋を着用して手を保護してください。

■ 裾のひらひらした服、アクセサリー類、ショートパンツ、サンダルなどを着用しないでください。頭髪は肩から下に垂れないように覆ってください。枝や機械の可動部にからまる危険性があります。

■ 靴は底に滑り止めのついた安全靴を使用してください。雨の日は、滑りやすいので作業をさけてください。



1－3　給油

⚠警　告

■ ガソリンと 2 サイクル専用オイルの混合および給油は、屋外の風通しのよい火気のない場所で行ってください。給油はエンジンを停止し、エンジンが冷えた後にゆっくりと燃料キャップを外して行ってください。急に燃料キャップをはずすと燃料が吹き出すことがあります。

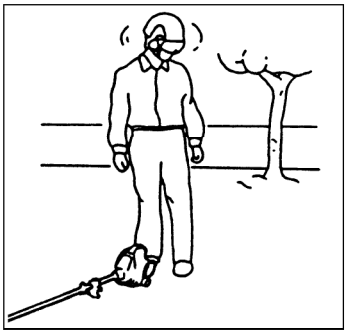
■ こぼれた燃料は本体から拭き取ってください。

■ 燃料の持ち運びや保管など、取扱いには十分注意してください。

1—4　始動

⚠警　告

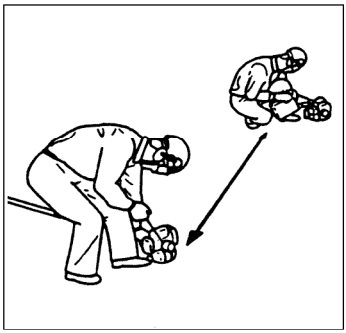
■ エンジンの始動は取扱説明書に従い、安定の良い場所で行ってください。



■ 始動時は周囲の安全を確認し、一人（補助者なし）で行ってください。

■ エンジンを始動する場合、ブレードが他の物体に接していないことを確認してください。エンジンを始動するとすぐにブレードが動きます。

■ エンジンがアイドリング時、ブレードが動いていないことを確認してください。アイドリング時、ブレードが動いていると危険です。アイドリング調整をして回転数を下げてブレードが動かないようにしてください。



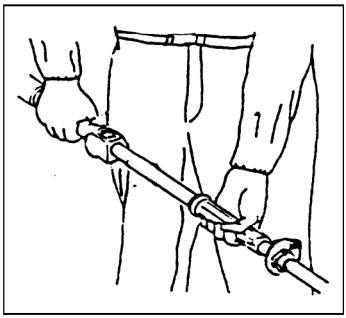
■ 漏れた燃料への引火防止のためエンジンの始動は、給油場所から3m以上離れた場所で行ってください。

1－5　作業

⚠ 危　険

■ 他の作業者と上下で作業をしないでください。物が落下したり、高枝ヘッジトリマーが落ちたときに重大な事故の原因となります。

⚠ 警　告



■ 刈払機を操作するときは前後グリップを両手でしっかり握ってください。その他の部分は持たないでください。

■ しっかりした足場の上で安定した姿勢で作業を行ってください。

■ 作業は原則として一人で行ってください。数人で作業する場合は5m以上の間隔をあけて作業してください。

■ 高枝ヘッジトリマーを使用している人に近づくときはお互いに合図を行い、エンジンを停止し、停止を確認した後に前から近づいてください。

■ 始動時以外はスロットルロックを使わないでください。スロットルロックをセットしたままでは、スロットルレバーから手を離していても、ブレードが動き続けて危険です。

■ ブレードにものがはさまったり、からまった場合はエンジンのスイッチを切り、ブレードが停止した後に、取り除いてください。

■ 高枝ヘッジトリマーを落としたり、何か異物に当てたときは、エンジンを止めて損傷の有無を調べてください。もし損傷があれば使用せず、すみやかに修理してください。

■ この取扱説明書の作業方法にしたがってせん定、刈り込み作業を行ってください。

■ 枝などが、自分や他の人に落下する恐れのある場合は、作業を行わないでください。

■ 枝を切り落す時は、落ちる位置を確かめ、自分や他の人の安全や、電線、電話線など設置物の破損防止を常に確認してください。

■ 燃料キャップは休憩時に増し締めしてください。運転中に振動でゆるんでいる可能性があります。

■ 燃料が漏れた場合は、ただちにエンジンを停止して、火気を近づけないでください。

⚠注　意

■ 運転中または停止直後に高温部（マフラー、シリンダーなど）に触れないでください。ヤケドをします。

■ せん定、刈り込み作業前には、ブレードの締付けボルトの点検をしてください。

1－6　停止

⚠警　告

■ エンジン停止後、あるいはスロットルレバーを戻した後も、ブレードはしばらくだ性で動いて危険です。スイッチを切った時には、ブレードが停止するのを待って、停止を確認した後に高枝ヘッジトリマを地面に置いてください。

1－7　点検・整備

危　険

■ 点検・整備（掃除など）を行うときは必ずエンジンを停止し、ブレードが停止していることを確認してから行ってください。

警　告

■ 混合燃料はたいへん引火しやすいので、点検・整備は風通しのよい火気のない所で行ってください。

■ 燃料キャップや燃料タンクおよびキャブレターなどから燃料漏れがないか定期的に確認してください。

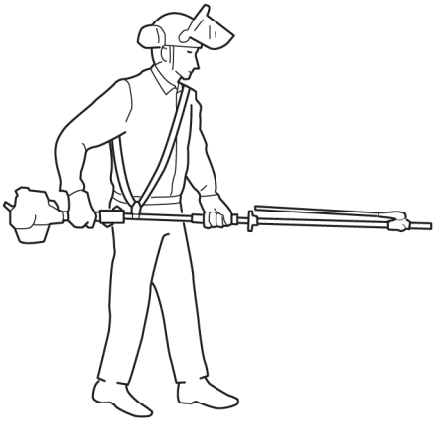
■ 整備と修理を行うときは新ダイワ純正部品を使用してください。他社の部品を使用すると重大な事故になる恐れがあります。

■ 取扱説明書に記述がない整備や修理は行わないでください。そのような整備や修理はお求めの販売店かお近くの弊社営業所に依頼してください。

注　意

■ 点検・整備・掃除などはエンジンが冷えてから行ってください。ヤケドの恐れがあります。

1－8　移動・保管



⚠警　告

■　移動時あるいは保管時にはエンジンを停止してください。また、ブレードにブレードカバーを装着しブレードを収納位置で固定してください。

■　移動、運搬の時は、ブレード部が他の人や物に当たって事故を起こさないように注意してください。

⚠注　意

■　保管の際は、燃料漏れ、破損、ケガなどを防止するために、高枝ヘッジトリマーを転倒しないように安定した場所に置いてください。

■　年少者（子供）の手が届かない乾燥した冷暗所に保管してください。

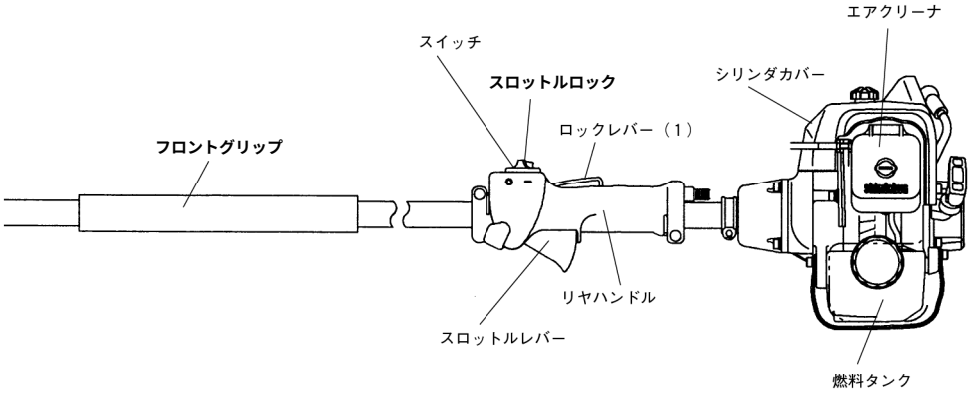
■　2～3日以上保管する場合は燃料タンクおよびキャブレター内の燃料を空にしてください。

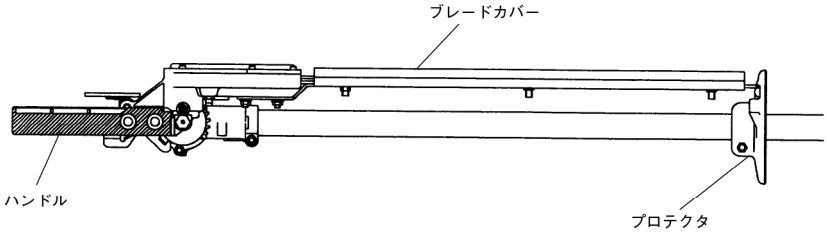
2．仕様

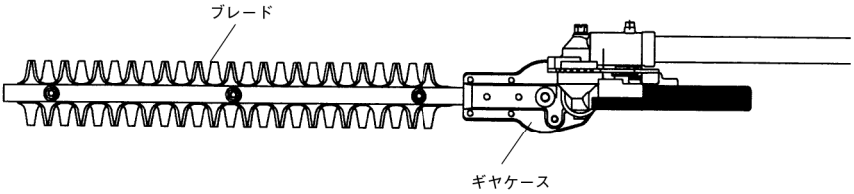
項目＼モデル名		AH230
エンジン	名称	PP230
	形式	強制空冷2 サイクルガソリンエンジン
	排気量 mL	22.5
	使用燃料	（ガソリン）25：(2 サイクル専用オイル）1
	点火方式	電子点火方式
	スパークプラグ	チャンピオンCJ8
	始動方式	リコイルスターター
	キャブレター	ダイヤフラム式
	燃料タンク容量 mL	550
動力伝達方	クラッチ方式	乾式自動遠心クラッチ
	減速装置	平歯車
	減速比	1 ：6.14
	潤滑方式	グリース潤滑（リチウム系グリース使用）
ブレード	全長 mm	430
	ピッチ mm	31
	往復回数 回/sec	1791（11000rpm時）
本体乾燥質量 kg		5.7
外形寸法（L ×W ×H）		2230×230×240
標準装備品		ブレードカバー 付属工具一式
別売品		ストラップ・ハンガー

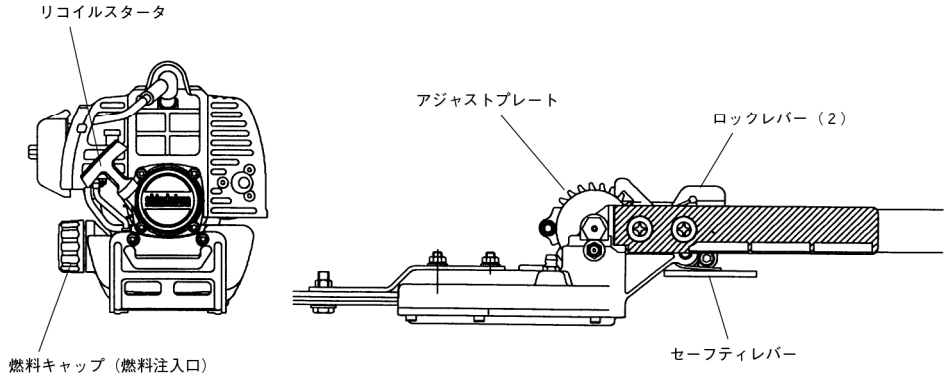
※本仕様は予告なく変更することがあります。
※本体乾燥質量に、ブレードカバーは含まれません。
※外形寸法はブレードを水平にセットした状態。

3．各部の名称


エアクリーナ
スイッチ
スロットルロック
シリンダカバー
フロントグリップ
ロックレバー（1）
リヤハンドル
スロットルレバー
燃料タンク


ブレードカバー
ハンドル
プロテクタ


ブレード
ギヤケース


リコイルスタータ
アジャストプレート
ロックレバー（2）
燃料キャップ（燃料注入口）
セーフティレバー

No.	名　　称	機　　能
1	ブレード	生垣や植込を刈り込む刃物
2	プロテクタ	手がブレードに触れるのを防ぐものです。
3	フロントグリップ	機械を保持するためのグリップです。
4	リヤハンドル	機械を保持するためのハンドルです。
5	スロットルレバー	エンジン回転数を調節するために使用します。
6	ロックレバー（1）	スロットルレバーが不用意に動かないようにする安全装置です。
7	スイッチ	スイッチをSTOPにするとエンジンが停止します。
8	スロットルロック	エンジンを始動するときスロットルレバーを一時的に固定します。
9	ハンドル	ブレードの角度調整を行うとき左手で握ります。
10	ギヤケース	エンジンの回転を減速し、往復運動に変える構造が格納されています。
11	アジャストプレート	ブレードの角度を調節するために使用します。
12	ロックレバー（2）	ブレードの角度を固定するために使用します。
13	セーフティレバー	ロックレバー（2）が固定位置から不用意に解除されないようにする安全装置です。
14	シリンダカバー	エンジンを被うカバーです。
15	エアクリーナ	エンジンに吸引する空気のゴミを取り除くフィルターです。
16	燃料タンク	燃料を入れる容器です。
17	燃料キャップ	燃料タンクのふたです。
18	リコイルスタータ	ロープを引いてエンジンを始動します。
19	ブレードカバー	本機の持ち運びや保管の時ブレードに装着するカバーです。

4．組立の手順

4―1　外観と付属部品のチェック

本機は工場出荷の際に厳密な検査をしておりますが、輸送途中での損傷やビス・ナット類のゆるみ、脱落がないか点検してください。

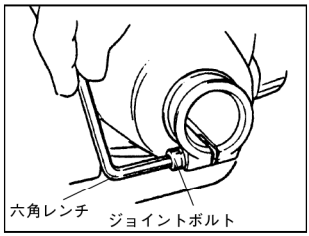
点検の結果、異常や欠品があった場合は、ただちにお求めの販売店かお近くの弊社営業所までご連絡ください。
そのまま使用されますと、重大な事故となる恐れがあります。

⚠注　意

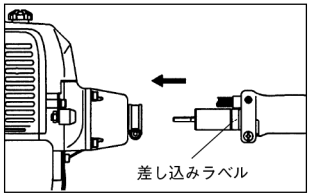
■　ボルトは必ず付属の六角レンチを使用し、手で締め付けてください。

4－2　エンジンの取り付け

① ジョイントボルトをゆるめてください。



② エンジンにアウターパイプを差し込みます。
アウターパイプの「差し込みラベル」まで差し込んでください。
③ ジョイントボルトを確実に締め付けてください。

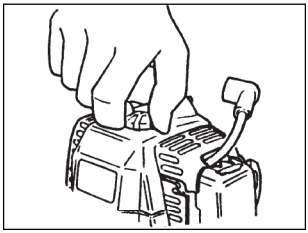


注　記

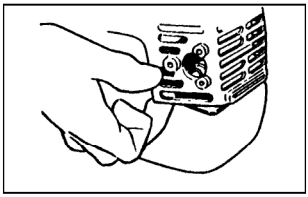
■　途中までしか差し込めない場合は軸どうしが当たっているため、少し引き抜き、少し回して位置をずらし、ふたたび差し込んでください。

4－3　スロットルケーブルの取り付け

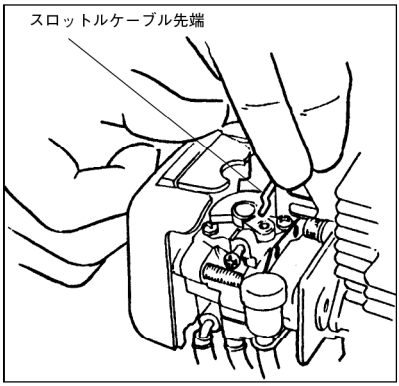
① スパークプラグのキャップを取り外し、シリンダカバーのノブをゆるめてください。



② シリンダカバーのマフラー下部を手前に引くようにして、シリンダカバーを取り外してください。

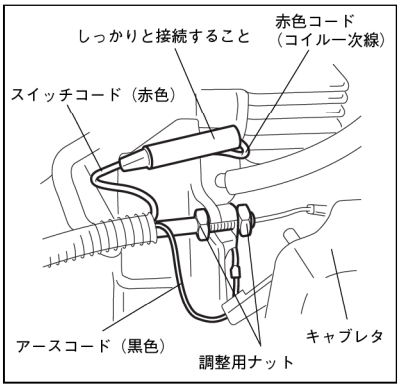


③ キャブレタの取付穴にスロットルケーブルの先端をさし込んでください。



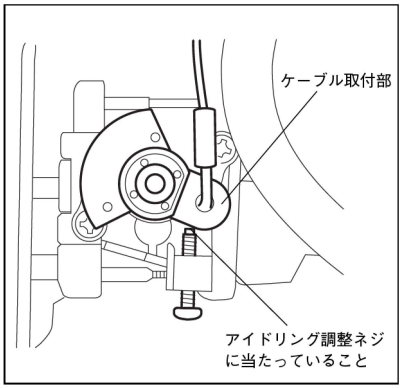
④ スロットルケーブルの調整用ナットをゆるめてください。

- アースコード（黒色）がキャブレタ側にくるようにセットしてスロットルケーブルのナットをファンカバーの溝にはさみ、仮締めしてください。
- スイッチコード（赤色）はキャブレタ付近に出ている赤色コード（コイル一次線）としっかり接続してください。

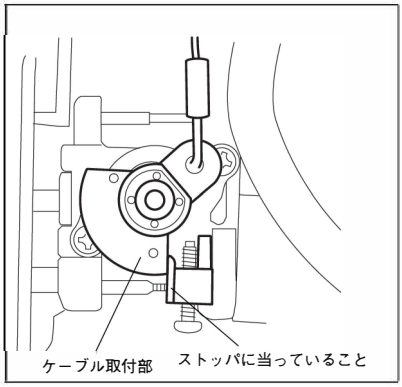


⑤　次の項目を確認して、調整ナットを調整し、固定してください。

- スロットルレバーから手を離したときに、キャブレターのケーブル取付部がアイドリング調整ネジに当っていることを確認してください。



- スロットルレバーを手で一杯引いたとき、キャブレターのケーブル取付部がストッパに当たっていることを確認してください。



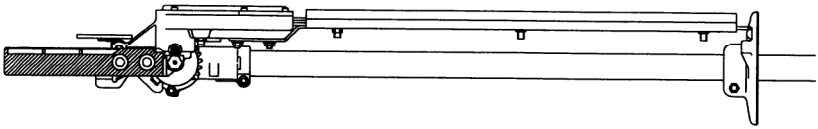
⑥　シリンダカバーとスパークプラグをもとの通りに組み付けてください。

4－4　ブレードの調節

下記の手順で、ブレードの角度調節を行って下さい。

⚠警　告

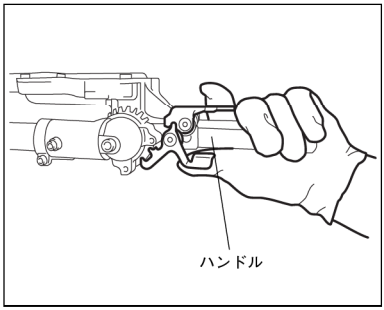
■　ブレードが下図に示す収納状態にある時は、決してエンジンを始動しないで下さい。収納状態でエンジンを始動すると、重大な事故の原因となります。



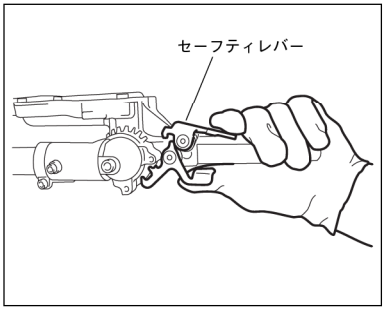
⚠注　意

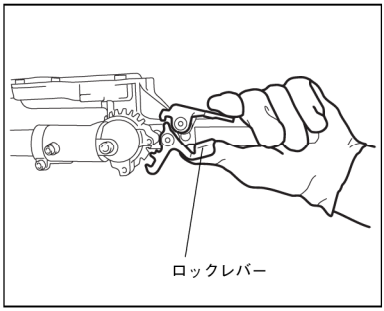
ブレード付近の操作を行う時は、必ず手袋をして下さい。

① 右手でフロントグリップを握り、左手でギヤケース後方のハンドルを持って下さい。

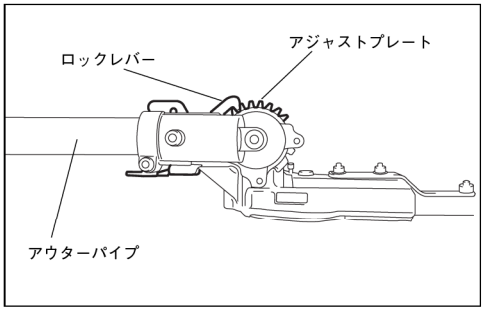


② 左手人差指でセーフティレバーを押し、親指でロックレバーを押して、ブレード角度調整の固定を解除して下さい。





③ ブレードがアウターパイプと真直ぐになるようにして、ブレードをロックして下さい。この時に、ロックレバーがアジャストプレートに確実にかかっていることを確認して下さい。



④ ブレードカバーを外し、エンジンの始動の項に従ってエンジンを始動して下さい。

5. エンジンの始動と停止

5－1　燃料の給油

1．燃料

燃料は必ず、無鉛ガソリン25に対して 2 サイクル専用オイル 1 の割合で混合した混合燃料を使用してください。
燃料は混合容器に 2 サイクル専用オイルを先に入れ、後からガソリンを加えてよく混合してください。

（例）

ガソリン25　：　2 サイクル専用オイル 1	
（リットル）	（cc）
1	40
4	160
8	320

■　正しい混合比の燃料を使わないと、適正な性能がでなかったり、エンジン焼き付きの原因となります。

■　燃料は常に新しい物を使用してください。2 ～ 3 ヵ月以上保存したり、異物が混入した燃料を使用すると故障の原因となります。

2．給油手順

⚠ 警　告

■　給油は屋外の風通しのよい火気のない場所で行ってください。
■　平らな場所で給油してください。

① 異物やゴミをタンク内に入れないために、燃料を給油する前にキャップのまわりをよく掃除してください。
② 給油する前に燃料をよく混合してください。
③ 燃料タンクの燃料キャップをゆっくりと外し、燃料を給油してください。
④ 給油後は確実にキャップを締め、燃料タンクから燃料漏れのないことを確認してください。

5－2　エンジン始動

⚠注　意

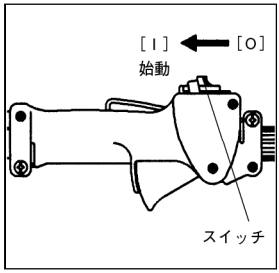
■ エンジンを始動する時、ブレードが他の物体に接触していないことを確認してください。また、そばに他の人がいないことを確認してください。始動後すぐにブレードが動きだし危険です。

⚠注　意

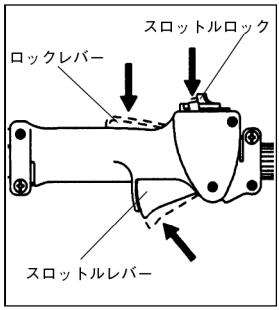
■ 始動時にリコイルスターターのロープを最後まで引かないでください。ロープの寿命が短くなります。
■ リコイルスターターを急に離さないでください。正しく巻き込まれないことがあります。

1．エンジンが冷えている時、または燃料切れで燃料を給油した時

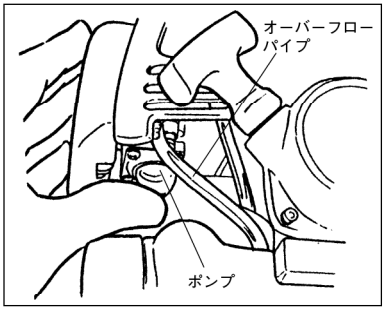
① スイッチを「Ⅰ」の位置（グリップの方向）にスライドさせる。



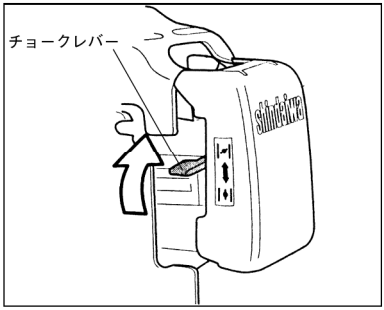
② ロックレバーを押さえ、スロットルレバーを引きながらスロットルロックを押しこんで、スロットルレバーをゆっくりはなしてください。



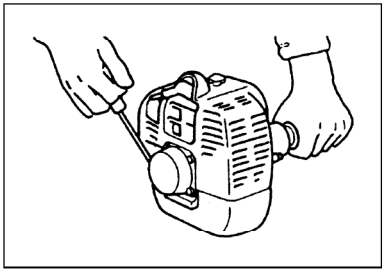
③ キャブレターのポンプを数回押し、オーバーフローパイプから燃料が流れ出ることを確認してください。（この時、燃料の泡が無くなるまでポンプを押してください。）



④ チョークレバーをチョーク（閉じる）の方向に押してください。



⑤ 高枝ヘッジトリマーを足場のしっかりした平地に置き、図のように左手でエンジンを押さえて、リコイルスターターを引いてください。つめがかかるまではゆっくり引き、かかって重くなった位置から強く引いてください。爆発音がしてすぐに停止した場合はチョークレバーを（開く）方向に戻して再度リコイルスターターを引いて始動してください。

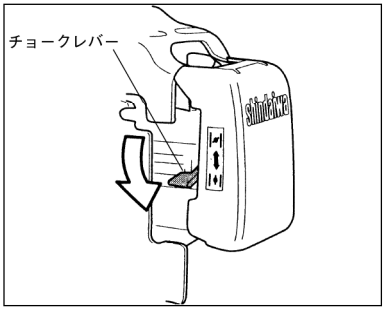


注　意

■ **チョークレバーをチョーク（閉じる）の方向に押して始動するとき、最初の爆発音がしたら、必ずチョークレバーを（開く）の方向に戻してから再始動してください。チョークレバーを戻さないと燃料の吸い込みすぎになり、始動ができなくなります。**

⑥ エンジンが始動したら、チョークレバーを（開く）の方向に戻してください。チョークレバーを戻す前に停止した場合もチョークレバーを戻して再始動してください。

始動後は一度スロットルレバーを全開にすると、スロットルロックが解除されアイドリングにもどります。



⑦ 2～3分間アイドリング状態で暖気運転してください。

2．エンジンが暖まっているとき

①②③⑤の順序で始動してください。

5－3 始動困難なとき

エンジンが暖まっている状態で始動しないときは、エンジンが冷えている場合と同じ方法で始動してみてください。それでも始動しない場合、またはエンジンが冷えた状態で始動しない場合は次の操作をおこなってください。

① スパークプラグをプラグレンチで外し、スパークプラグの電極部が濡れているかどうか調べてください。

② スパークプラグが濡れている場合はスパークプラグを乾燥してください。スパークプラグを抜き取った状態でリコイルスターターを引き、数回空転させて燃料をシリンダ内から追い出してください。

⚠警 告

■ 火気を近づけないでください。火災の原因となります。

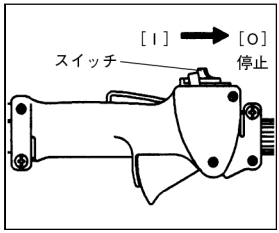
③ スパークプラグを付属のプラグレンチで確実に取り付け、プラグキャップをつなぎます。エンジンが暖まっている場合の方法で始動してください。

④ スパークプラグが濡れていない場合は燃料タンクから燃料が届いていないので、燃料フィルターやキャブレターを点検する必要があります。点検・整備の項を参考にして点検をするか、またはお買い上げの販売店にお問い合わせください。

5－4　停止

① スロットルレバーをもどし、エンジンをアイドリング状態にします。

② ストップスイッチを右図のように「ＳＴＯＰ」・「0」側にスライドさせてください。



⚠注　意

万一、スイッチの故障などで、エンジンが停止できなくなった時は、チョークレバーを|◢|（閉じる）方向に押してください。エンジンが停止します。

6．せん定、刈り込み作業

⚠警　告

- **高枝ヘッジトリマーを運転中は常に保安帽、保護メガネ、耳栓、手袋を着用してください。**
- **使用中、ブレードに何か噛み込んで動きが止まってもエンジンは回転し続けます。**
  この場合、必ずエンジンを停止してから取り除いてください。
- **高枝ヘッジトリマーを操作するときはハンドルをしっかり握ってください。ブレードが動いている時は、絶対にハンドルから手を離さないでください。**
- **ブレードの角度調整は、必ずエンジンを停止してから行って下さい。**

6－1　ブレードの操作範囲

ブレードは、右図に示す120°～270°の範囲で11ケ所（15°間隔）で固定することができます。

ブレードを作業に適した角度にしてお使い下さい。

ブレードの角度調節は「４－４ブレードの調節」①②③の手順で行って下さい。

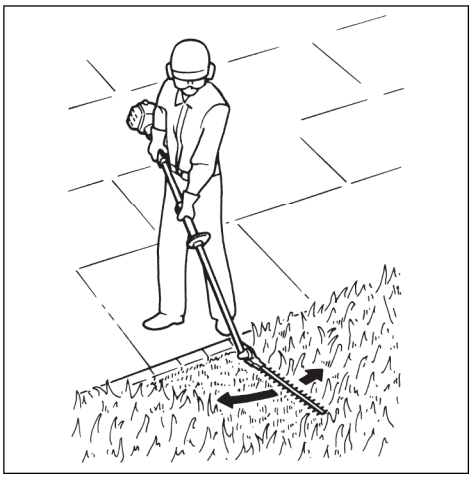


6－2　操作の方法

① エンジン始動後、スロットルレバーを握ると、エンジンの回転速度が上がり、ブレードが動き始めます。
作業に応じてスロットルレバーを動かして回転速度を調節してください。

② 生垣などの上の方を刈るときや草を刈るときは、ブレードを左右へ動かしながら刈り込みます。

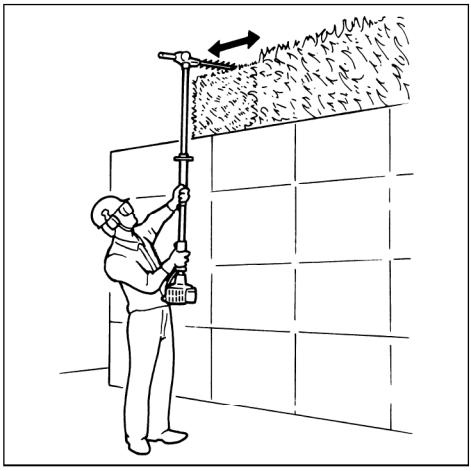




③ 横側を刈るときは、ブレードを下から上へ動かしながら刈り込むと、刈りそろえがうまくできます。



④ ブレードの角度を270°にすると、上面の刈り込みが行えます。



⚠注　意

- **直径15mm程度までの太い枝を切ることは可能ですが、刃の破損及び駆動系の寿命を短くしますので、無理な作業はできるだけ避けてください。**
- **ブレードが見えない状態で刈り込み作業を行うときは、刈り込みの向こうに人がいないことを確認して下さい。**

7．点検・整備

警　告

■ **ガソリンはたいへん引火しやすいので、点検・整備は風通しのよい火気のないところで行ってください。**

■ **点検・整備は必ずエンジンを停止し、エンジンが冷えてから行ってください。**

点検・整備表

項目		始動前	毎週	毎月	必要な場合
エアクリーナー	掃除	○			
キャブレター	調整				○
スパークプラグ	点検、掃除			○	
シリンダーフィン	掃除			○	
燃料フィルター	掃除			○	
ギヤケース	グリース補給			○	
ブレード	点検、目立	○			
ボルトスクリュー、ナット	点検、増締	○			
燃料パイプ 燃料キャップ、燃料タンク	漏れ点検	○			
ブレードのすきま	点検、調整			○	

7－1　日常の手入れ

1．高枝ヘッジトリマー全体の枝葉やホコリを取除いてください。特に冷却空気の通り路や、エアクリーナー部分の付着物に気をつけてください。
2．各締付部のゆるみ、あるいは部品の脱落がないかをよく調べてください。特にブレードの締め付けボルトが緩んでいないか、確認してください。
3．燃料やグリースのもれがないか点検してください。

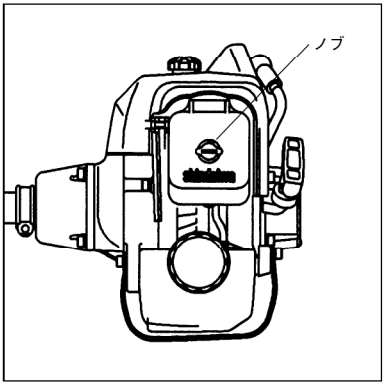
4．ブレードには、燃料補給ごとにオイルまたは、マシン油を油差しなどで注油してください。潤滑が悪いとブレードの動きや切れ味が悪くなります。
また、樹脂、ヤニや汚れが付着していると切れ味が悪くなりますので時々掃除をして下さい。
5．雨水等で濡れたブレード部を上向にしたまま、置かないでください。ギヤケース内に水が入り込んで錆びる原因になります。

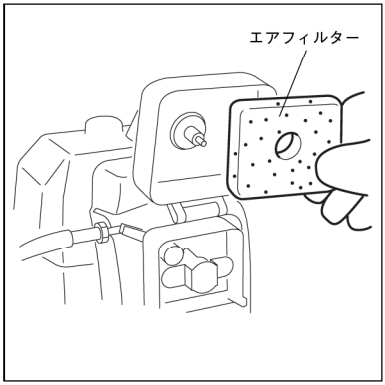
7－2　エアクリーナーの掃除

① クリーナーカバーのノブをゆるめてクリーナーカバーを外してください。
② エアフィルターを取り出してください。
③ エアフィルターは、ごみを落してから中性洗剤又は、石鹸水で洗い水ですすいで固く絞って乾燥させて下さい。
④ クリーナーカバーをもとの通りに取り付けてください。

⚠注　意

■　エアフィルターに水分が残っているとエンジン不調の原因となります。必ず、固く絞り、乾燥させて使用して下さい。





7－3　キャブレターの調整

キャブレターは工場出荷時に調整してありますので、調整の必要はありません。気圧、気候、燃料の違い、10時間以上の使用による状態変化等により、調整が必要になったときにのみ行なってください。
エンジンを始動し、2～3分間の暖機運転の後、次の手順で調整してください。また、エアクリーナーが汚れている場合は掃除してから行ってください。

⚠危　険

■　ブレードの周辺に人または干渉物がないことを確認して行ってください。アイドリングの調整時にはブレードが動きます。

① アイドリングの回転調整
アイドリング時にはブレードが動かないようにアイドリング調整ねじでエンジン回転を下げます。またエンジンが安定して回転するように調整してください。アイドリングの回転数は、2750±250rpmです。



アイドリング調整ねじを［右に回すと→回転が速くなる。
　　左に回すと→回転が遅くなる。

⚠注　意

■　不調の場合は、販売店か弊社営業所に調整を依頼してください。

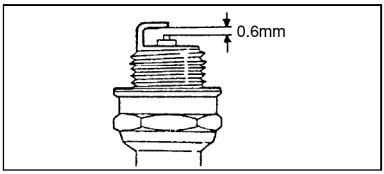
7－4　スパークプラグの点検

⚠注　意

■　スパークプラグを取扱う場合は、エンジンが十分冷えてから行ってください。やけどするおそれがあります。

エンジンの始動性が悪くなったり、アイドリングが不安定になった場合はまずスパークプラグを点検してください。

① プラグキャップを外し、スパークプラグを付属のプラグレンチで外してください。



② ワイヤブラシでスパークプラグの汚れを落してください。必要なら電極間すきまを調整してください。

■　正しいすきまは0.6mm（官製はがき3枚の厚さ）です。
■　調整がうまくできない場合は、販売店か弊社営業所に依頼して下さい。

③ スパークプラグを締め付け、プラグキャップをしっかりと奥まで取り付けてください。

注　記

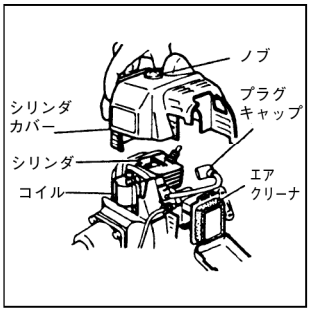
■　約100時間運転後、または電極の腐食がひどい場合はスパークプラグを交換してください。スパークプラグはチャンピオン製CJ8をご使用ください。

7－5　シリンダーフィンの清掃

⚠ 警　告

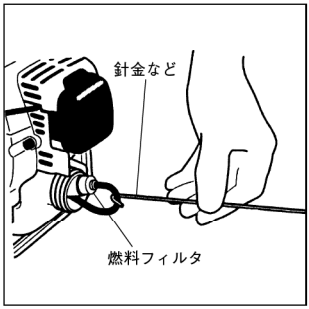
■ **シリンダーフィンの汚れや草のつまりはエンジンの過熱、焼き付きや火災の原因となりますので定期的に点検、掃除してください**

① プラグキャップを外し、シリンダーカバーの取り付けノブをゆるめシリンダーカバーを外してください。
② シリンダーフィンやシリンダーカバー等に付着している草やホコリを取り除いてください。
③ 清掃後はシリンダーカバー及びプラグキャップを組み付け、ノブを確実に締め付けてください。（シリンダカバーを組み付けるときはクランクケースにきちんとはめてください。）



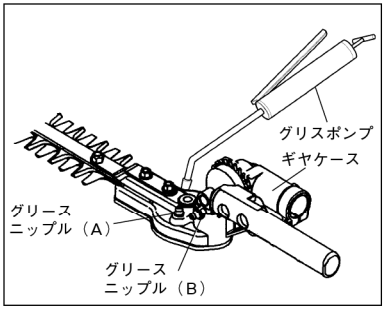
7－6　燃料フィルターの掃除

① 燃料注入口から針金などで燃料フィルターを引き出してください。
② 先端の燃料フィルターを取り外しきれいな混合燃料でよく洗ってください。
　● 燃料フィルターの汚れが落ちない場合は交換してください。
③ 洗浄後、燃料フィルターをもとの通りに組み付けてください。
④ ゴムパイプが折れないようにして燃料フィルターを燃料注入口から、燃料タンク内に戻してください。
　このとき、燃料フィルターが燃料タンクの底についていることを確認してください。



7－7　グリス補給（20時間毎に行って下さい）

右図グリースニップル（A）（B）を清掃してからグリースポンプを使用して、新ダイワ純正グリース（リチウム系グリース）を注入して下さい。

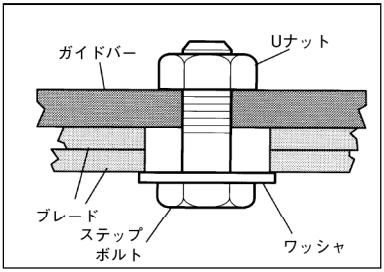


グリースニップル（A）
　ブレード取付口からグリースがにじみ出るまで注入。
グリースニップル（B）
　ギヤケースをアウターパイプから取り外しギヤケースのメインシャフト差込穴からグリースが出るまで注入。

※　指定以外のグリースを使用すると故障の原因になります。

7－8　ブレードのすきま調整

このモデルは常に切れ味を良く保つためにブレードのすきまを調整方式にしています。すきま調整はブレード締付スクリュ（ステップボルト）をいっぱいに締め込んだ位置からスクリュを半回転程戻してからナット（Uナット）でロックしてください。



※　ブレードのワッシャが手で軽く回ることを確かめてください。
- すきまが広い場合
  切れ味が悪くなります。
- すきまが狭い場合
  カッターが動かなくなる。またブレードが焼き付くことがあります。

※　ブレードが磨耗した時は、販売店で目立て又は交換してください。

8．長期保管

次の手順に従って保管してください。

① 損傷箇所がある場合は、修理してください。

② 各部を十分に掃除して、ブレードにはオイルを塗ってください。

③ 点検・整備の項を参考にして点検・整備を行ってください。

④ 燃料タンクの燃料を全部排出してください。

⑤ エンジンを始動し、ギャブレター内に残った燃料を使いきってエンジンが停止するまで低速で運転してください。

⑥ ブレードカバーを装着してください。

⑦ スパークプラグをはずし、スパークプラグ穴から少量のオイルをシリンダ内に流し込み、オイルがゆきわたるように 2 ～ 3 回リコイルスターターをゆっくり引いてください。

⑧ スパークプラグをもと通りに取り付けてください。

⑨ クリーナーカバーを外し、フィルターを掃除してもと通りに取り付けてください。

⑩ 乾燥した火気のない冷暗所に保管してください。

⚠注　意

■ **燃料タンク、フューエルパイプ、キャブレターの中に燃料が残った状態で長期保管をしないでください。燃料が変質し、故障の原因となります。**

9．故障の診断と処置

9―1　エンジンが始動しない場合

区　　分	原　　因	処　　置	参照ページ
リコイルスターターが引けない	・リコイルスターター故障	販売店で修理	―
	・ピストン焼き付き		
圧縮が弱い	・スパークプラグの緩み	締め付け	29
	・シリンダー、ピストン、ピストンリングの摩耗	販売店で修理	―
燃料の不良	・燃料の変質	新しい混合燃料を給油	19
キャブレターに燃料が来ない	・燃料フィルターの目づまり	清掃または交換	30
	・燃料パイプの破損	販売店で修理	―
スパークプラグが発火しない	・スパークプラグが濡れている	スパークプラグを外して乾燥させ、リコイルスタータを回しシリンダ内の余分な燃料を排出し、再始動	22
	・スパークプラグにカーボン付着	清掃	29
	・スパークプラグすきま不良	0.6mmに調整販売店で修正	29
	・電装部品の故障	販売店で修理	―
	・スパークプラグが損傷又は種類が違う	新しいスパークプラグに交換	29

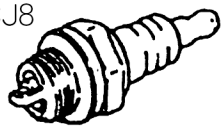
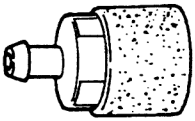
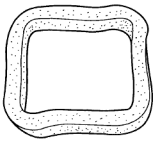
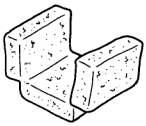
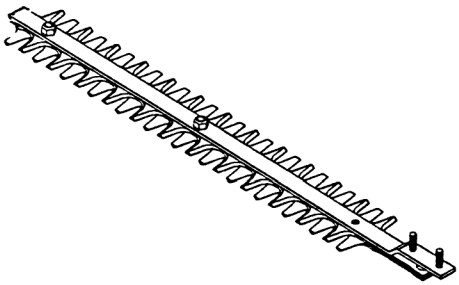
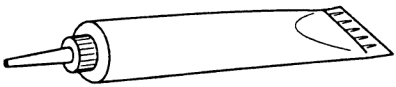
9—2　力がない場合

区　　分	原　　因	処　　置	参照ページ
エンジンの過熱	・過負荷使用	ゆっくり切断する	—
	・燃料混合比不良	正しい混合比の燃料を給油する	19
	・シリンダーフィンにゴミが付着	清掃	30
	・ピストン上部、マフラー内カーボン付着	販売店で修理	—
エンジンの回転むら	・エアフィルターの目づまり	清掃または交換	30
	・スパークプラグの締め付けがゆるいまたは不良	締め付けまたは交換	29
	・燃料フィルター、パイプの詰まり、またはエア混入	販売店で修理	—
	・燃料に水の混入	燃料交換	19
	・ピストン焼き付き	販売店で修理	—
	・キャブレター不良		
ノッキング	・エンジンの過熱	上記参照	—
	・燃料不良	燃料交換	19
	・シリンダー内カーボン付着	販売店で修理	—

9—3　その他の故障

区　　分	原　　因	処　　置	参照ページ
加速不良	・エアフィルター目詰まり	清掃	27
	・アイドリング回転数が低い	アイドリング調整ねじで調整	28
	・ブレードのすきま調整不良	ブレードのすきま再調整	31
運転中にエンジン停止	・燃料の欠乏	燃料給油	19
	・燃料フィルター目づまり	販売店で修理	—
	・燃料に水の混入	燃料交換	19
	・スパークプラグのカーボン付着による短絡	清掃	29
	・プラグキャップの抜け	確実に取付ける	29
	・電装部品故障	販売店で修理	—
	・ピストン焼き付き		
エンジン停止困難	・スイッチ故障	販売店で修理	23
	・アース線の断線		
	・エンジン過熱	前記 9－2の項目を参照	—
エンジンの回転を下げてもブレードが止まらない	・クラッチ故障	販売店で修理	—
	・アイドリング回転数高い	アイドリング調整ねじで調整	28
エンジンの回転を上げてもブレードが動かない	・ギヤケース・クラッチの故障	販売店で修理	—
	・ブレードの破損		
	・ブレードの締めすぎ	ブレードのすきま調整	31
ブレードの切れ味が悪い	・ブレードの刃部が摩耗している	販売店でブレードの目立又は交換	—
	・ブレードのすきま調整が悪い	ブレードのすきま調整	31

10. 主な消耗品(お買い上げの販売店にご用命下さい)

スパークプラグ	チャンピオンCJ8 
フューエルフィルター	 ※販売店で交換
エアフィルター	
パッキン	 ※販売店で交換
ブレード	 ※販売店で交換
グリース	 リチウム系グリース

メ　モ

メ　モ

株式会社やまびこ

〒198-8760 東京都青梅市末広町 1-7-2
Tel 0120-176-181（製品・技術的なお問い合わせ）
受付時間：弊社営業日 9:00～17:00

やまびこジャパン株式会社

〒198-0025　東京都青梅市末広町 1-7-2　　Tel 0428-32-1005（代）

北海道支社
〒004-0041　北海道札幌市厚別区大谷地東 1-2-20　　Tel 011-891-2249（代）

東北支社
〒984-0002　宮城県仙台市若林区卸町東 5-1-50　　Tel 022-288-0511（代）

東日本支社
〒198-0025　東京都青梅市末広町 1-7-2　　Tel 0428-32-1091（代）

中部支社
〒452-0031　愛知県清須市西枇杷島町宮前 1-39　　Tel 052-502-4111（代）

西日本支社
〒701-0221　岡山県岡山市南区藤田566-159　　Tel 086-296-5911（代）

九州支社
〒816-0943　福岡県大野城市白木原 5-3-7　　Tel 092-573-5361（代）

ご用命の際はお買い上げいただいた販売店へご連絡ください。

X750-015760
X750287-0000

2106r 0228 ES

(C) 2009 株式会社やまびこ　著作権法により無断での複製、転載などは禁止されております。